

青少年

第62号

令和6年2月1日

塩尻市教育委員会
生涯学習部
社会教育スポーツ課・共生推進係

〔発行〕 塩尻市青少年育成センター（塩尻総合文化センター内） 電話 0263-52-0894 FAX.0263-54-2705

ほほ笑む「交差点」



塩尻市青少年育成委員協議会
会長 薄田 利秋

▼交差点は多くのクルマを初め、児童・生徒、地域の人々が行き交い、出会い、交流する場所です。また、地域コミュニティや社会的、経済的なつながりの場でもあります。その具体的事例として、子どもたちの見守り・声掛けが挙げられます。本活動は子どもたちの安全対応だけでなく、彼らが安心して学び、成長できるような場として、地域の人々による応援の場となります。

活動の積み重ねにより、子どもたちとのほほ笑み、会話も増え、「ほほ笑む交差点」は楽しい交流の場となっています。

▼私たちは現在、主として学校でのあいさつ運動、通学路での見守り・声掛けなど子どもたちが多く集う場所での活動を行っています。同時に、学校行事予定、天候、子どもたちの様子などから、積極的にほほ笑み、話しかけるよう努めています。

ほほ笑みは強力なコミュニケーションツールです。ほほ笑むことで、子どもたちに友好感、安心感、開放感が生まれます。彼らはとても好奇心が旺盛で、虫、石ころ、雲、花、動物などよく見つけて、追いかけて、観察し、気軽に話をしてくれます。彼らの言動を時に褒め、好奇心、探求心に大いに感心し学んでいます。

▼このような身近な活動の一方、環境は変貌し、近時、デジタル化・ネット化進展の中で、スマホ、タブレットなどの所持、活用が進んでいます。学習機会の向上やコミュニケーションの拡大等の効果をもたらす反面、ネット依存、いじめ、健康障害などの問題も広がっています。対策の一環として情報モラルの啓発活動など進められています。

▼これらの活動を含め、子どもたちの成長・安全な環境を一層拡充する必要があります。

あります。見守り等レベルの向上、情報共有・連携が求められます。本委員活動の目的、存在意義など、学校、保護者、市民へのきめ細かな説明や広報が大切です。子どもたちと共にほほ笑み、会話し、子どもたちの安全や成長につながる地域の「ほほ笑む交差点」を目指し、協力し楽しく活動を進めます。



ジュニアリーダー養成講座

市内の小学4、5年生を対象に、平成29年度から実施しているジュニアリーダー養成講座が、今年度も開催されました。この事業は、地域の子ども会活動等での中心的な役割を担うジュニアリーダーを育成することを目的として行われています。今年度は11名の応募があり、全6回の講座を行いました。

今回の講座では、令和2年からコロナの影響で中止、または日帰りでの実施となっていた、自然



げんすけの森 柏茂会館にて

体験研修を1泊2日の日程で行うことができました。研修では、最初に自然で遊ぶ際の注意点を、危険予知トレーニングで学んだ後、実際に山や川に出向いて植物の観察や生き物探しをしま

飯ごう炊飯の準備



した。自分たちで火をおこして炊いたご飯の味は格別だったようで、子どもたちは夢中でほおばっていました。

2日間の研修では、仲間との距離がぐっと近づき、各自が自主的に発言したり、行動したりする様子が見られ、楽しさの中から発見や学びことも多かったようです。

第3回研修会からは、SDGsについて学びました。日本や世界が抱える問題を自分事と捉え、自分たちの住む地域をよりよくするにはどうすればよいかを、3回にわたりゲームやクイズなどを通して考えていく講座となりました。

今世界で起きている環境問題や、地域で抱えている課題を、SDGsの17の目標に当てはめて、今の自分が将来のために何ができるかを発表し合

した。

お楽しみのお食事は、みんな協力して夕食は飯ごうで炊き、朝食はホットドックを外で焼いて食べま

いました。また、仮想のイベントを企画し、決められた予算の中で、どういう人たちを対象にどんなイベントにしたいのかを各自で考えました。

最終回に行ったカードゲームは、自分に割り当てられたカードの目標を達成するために、仕事をしてお金や時間を貯めるというものです。

目標達成のためには、世界情勢や環境問題も考えなければならぬというルールに、子どもたちは頭を悩ませていましたが、仲間と交渉して自分の欲しいカードを手に入れるなど、それぞれ工夫している姿が見られました。閉講式には研修のまとめとして一人ずつ作文を発表し、修了証と記念バッジが受講生に送られました。インフルエンザ



SDGs研修会

等の流行もあり、全員の出席とはなりませんでしたが、受講生にはリーダーとしての自覚と責任感が芽生え始めるように感じられました。

もしも私が塩尻市長になったら

こんな街になったらいいな

桔梗小学校 4年 中村 真結

「もしも私が塩尻市長になったら、こんな街になったらいいな」と思う街は、「市民みんなが協力して市をよりあげる街」です。なぜかというと、市民みんなが協力すれば、すてきなところになるのではないかと思ったからです。そのために市民がつながれるようなイベントを作りたいです。

先日、市長さんから、市長さんや市のことをあるイベントで聞きました。市がかかえる問題もいろいろありました。私もそんなふうに、いろんな人にそのことを教えるイベントも行いたいです。

あと、市民の意見を聞いて協力したいです。市をよりあげるには、市が住みよく楽しい方が行ってみたいな、住んでみたいな、とほかの市の人も思うと思います。塩尻市のすばらしいところを使って、みんながなっとくできるようにしたいです。そのために、市民が相談できるところを作り、ご意見箱などを置いて、市民の意見を聞いてみたいです。

今年度の活動を振り返って

令和5年5月に、新型コロナウイルスが5類に移行し、ここ数年制限されていた活動や行事もコロナ禍以前の形に戻りつつあると実感した一年でした。私たちの活動においても、令和2年度以降中止となっていた、7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に伴う駅前街頭啓発を塩尻駅、広丘駅、木曽平沢駅の3ヶ所で行うことができました。当日は、「社会を明るくする運動強調月間」の啓発も同時に行い、塩尻警察署、塩尻市保護司会、塩筑地区更生保護女性会の方々と連携の上、朝の通勤・通学の時間帯にポケットティッシュとリーフレットの配布を行いました。また、昨年度は行わなかった児童館の見学もいくつかさせていたいただき、学校とは違う場所での子どもたちの過ごし方を垣間見ることもできました。



5月以降も児童館では手指消毒や検温などを続け、子どもたちが過ごす場所では様々な配慮がされています。子どもたちもそういった館内の

ルールを守りながら、思い思いに自分たちの時間を過ごしていたのが印象的でした。

近頃は、塾や習い事に追われ、放課後も忙しい毎日を送る子どもたちが多くなり、そのことも

外で子どもたちを見かけなくなった要因の一つと思われます。そのような日常の中、束の間ではありますが見守り活動の際に交わすあいさつや声掛けは、子どもたちと地域のつながりを生



令和5年度班別活動実績

あいさつ運動	17回
通学路の見守り	17回
駅前街頭啓発	2回
ゲームセンター等の巡回	7回
青少年健全育成協力店普及活動	4回
付き添い下校	4回



み、お互いに元氣や笑顔をやり取りできる貴重な時間です。

3団体合同研修会

9月28日（木）に、塩尻少年警察ボランティア協会、子ども会育成連絡協議会、青少年育成委員協議会の3団体合同研修会が行われました。当日は約40名の方にお集まりいただき、一般社団法人長野ダルクの方を講師に、「人は環境の子」と題して、薬物乱用防止啓発講演会を行いました。

薬物入手することは、スマートフォンの普及などにより容易にできてしまうが、一度使用するとその依存性は高く、特に若者の精神や体へ及ぼす影響が大きいとのことでした。その上で、薬物の危険性を大人が正しく理解し、地域での啓発活動を行いつつ、薬物使用を許さない環境づくりをしていくことが必要です。



薬物乱用は1回でも
「ダメ!ゼッタイ!」

中信4市青少年補導センター連絡会議

11月28日（火）に、塩尻市を会場に中信4市青少年補導センター連絡会議が行われました。

この会議は、塩尻市の他松本市、安曇野市、大町市の青少年補導委員と事務局が集まり、活動発表や各市から出された議題に対して意見交換を行うものです。最初に各市の方々にえんぱーくを見学していただき、その後会場を総合文化センターに移して、会議に入りました。長野県次世代サポート課中山指導主事から、青少年の現状についてお話をいただき、各市からは、委員のなり手不足についてや、関係団体との連携についてなどの議題が挙げられました。委員の選出については、現在長野市では10名程が、公募で選出されているとのこと、他の自治体でも将来的に公募制を検討していきたいとの回答がありました。



情報モラル講座

令和5年度の情報モラル講座が、吉田地区と片丘地区で行われました。この講座は、市内在住の小学生とその保護者を対象に、スマートフォンの正しい使い方を学ぶとともに、ネットワークを利用する上でのルールやマナーを理解することを目的に開催しています。



近年、スマートフォンの所持年齢が低年齢化し、それに伴いSNS上でのいじめや誹謗中傷などのトラブルも増加しています。親子で参加することで、スマートフォンの利用における各家庭でのルール作りや、フィルタリングを利用して有害な情報との接触から子どもたちを守る方法を学びました。

その後は、プログラミングの基礎講座を行い、ソフトバンクの人型ロボット「pepper」を各自で動かしてみたり体験は、子どもたちにも好評でした。

